

リスクコミュニケーション検討の方向性

1 都の地域特性

全国の自治体の中で最大の人口

多種多様な食品の流通と、膨大な情報の集積

1200万都民が食品の安全に関する正しい理解を得るためにはどうすべきか？

多種多様な考え方を持つ人たちとどのように対話を行うべきか？

全国あるいは各国から食品が集まる中で、関係者の理解と協力をどのように得るべきか？

2 リスクコミュニケーション充実のための視点

(1) 「役立つ情報」を迅速に、より広く分かりやすく発信すること

全国最大の人口を抱え、様々な年齢層や生活様式がある中で、それぞれの要望（疑問）にあった内容で、正しい情報を速やかに広く提供することが求められる。



情報を迅速に「より広く、分かりやすく」発信する必要性

(2) 「率直な意見交換」を進めること

膨大な食品や情報が溢れ、食品の安全に対する様々な考え方がある中で、常に正確な事実を把握するとともに、関係者の率直な意見を把握していくことが求められる。

また、関係者が相互に疑問や意見を率直に交換し、リスクや都の取組に対する理解を進めることが求められる。



関係者の声に「よりきめ細かく」対応する必要性

(3) 食品の安全確保について「ともに考えていく」こと

東京に食品を供給している事業者を含め、関係者が大消費地東京における食品の安全確保に向けて、それぞれできることを話し合いながら取組を進めていくことが求められる。



関係者による議論を「より深く」進める必要性